

# かわさき商工人

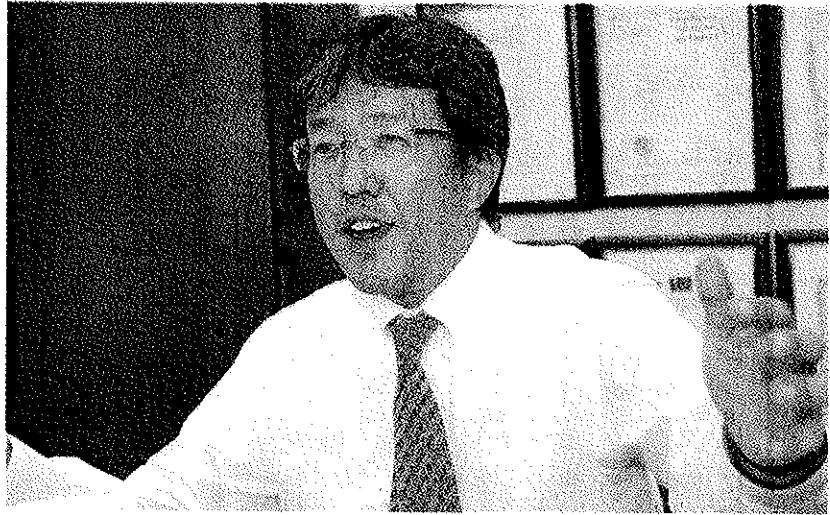
日本原料は、水道用ろ過材の製造販売をする会社だ。創業は1939年。齋藤安弘社長の祖父が、ガラスの原材料をふるいにかけて大きさを均等に仕分ける仕事を始めたのが最初。戦後、水道用ろ過材専門メーカーとして再スタートした。

齋藤氏は創業から数えて3代目の社長。それまで勤めていた会社を辞め、89年に日本原料に入社。97年に現職に就いた。入社当時、従業員の平均年齢は57歳で、計算もそろばんで行うなど古い体質が抜けきらない状態だった。若返りを図ろうにもパブル時で、都心の学生は中小企業など見向きもしない。そこで同氏は、地方の学校に足しげく通い、6人の新入社員を採用する。しかし、古い体質の環境

日本原料(株)

社長 齋藤 安弘さん(47)

▷ 47 ◁



「川崎発で世界へ羽ばたきたい」と意気込みを語る齋藤社長

まった。危機感を募らせた同氏は、創業50年を迎えていた同社を新しくつくり直す決意をした。

「ものづくりとは、つまるところ『組織づくり』『人づくり』なのだ」と同氏は話す。95年には、老朽化していた茨城の工場を改修プロジェクトに、同氏が選抜

日本原料(株) 川崎市川崎区東田町1の2、NKFC川崎ビル。☎044(22)5555。1939年創業。従業員66人。資本金5千万円。

削減を達成する工場にした。率先して若手社員を起用する。今後について、「先月末から市上下水道局と共同で、高効率ろ過砂洗浄装置『シフォンK3システム』の実証実験を開始した。この装置は10年前から独自開発し、改良を重ねてきた製品。目指すのは、お客さまに『こんな便利なものがあつたのか』と驚いていただけるような、先見性・イノベーション・卓越を兼ね備えた商品を、川崎発、日本に、同氏が選抜

## 率先して若手起用

に嫌気が差し退職する者が続出した若手社員を起用。3年かけて、結局6人全員が退職してして、生産能力2倍、コスト30%

こと」と、その意気込みを語った。  
(川崎商工会議所 企画広報部 白土 慎)